

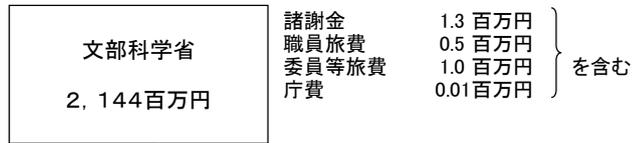
平成24年行政事業レビューシート

(文部科学省)

<b>事業名</b>		革新的タンパク質・細胞解析研究イニシアティブ		<b>担当部局庁</b>	研究振興局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>		平成21年度～		<b>担当課室</b>	ライフサイエンス課		ライフサイエンス課長 板倉康洋		
<b>会計区分</b>		一般会計		<b>施策名</b>	X-1 ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進及び倫理的課題等への取組				
<b>根拠法令 (具体的な条項も記載)</b>		-		<b>関係する計画、通知等</b>	新たなライフサイエンス研究の構築と展開(平成21年12月ライフサイエンス委員会)、第4期科学技術基本計画(平成23年8月閣議決定)				
<b>事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>		近年急速に性能が向上している高速のシーケンサー等を活用して、細胞・生命プログラムの解読に挑むとともに、創薬など医学・薬学への貢献が期待できる有用なタンパク質の解析を行い、生命現象の統合的理解、医学・薬学等への貢献、並びに構築した基盤のより様々な分野の研究、産業への波及効果を与えることを目指す。							
<b>事業概要 (5行程度以内。別添可)</b>		<p>「革新的細胞解析研究プログラム(セルイノベーション)」では、遺伝子の動きの変化や細胞内の情報の伝わり方などについての解析等による、細胞・生命プログラム解読に向け、革新的な解析能力を持つシーケンス拠点並びにデータ解析拠点の重点的な整備と、シーケンス拠点を利用した先導研究を一体的に推進。</p> <p>「ターゲットタンパク研究プログラム」では、基本的な生命の解明、医学・薬学等への貢献、食品・環境等の産業利用の3分野について、プログラム開始時の技術水準では解明が困難なタンパク質の構造・機能研究を行うターゲットタンパク研究とタンパク質の構造・機能の解明に必要な技術開発拠点の整備を一体的に推進。</p>							
<b>実施方法</b>		<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
<b>予算額・執行額 (単位:百万円)</b>				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
		予算の状況	当初予算	5,800	5,170	2,144	852	852	
			補正予算	-	-	-	-	-	
			繰越し等	-	▲5	5	-	-	
			計	5,800	5,165	2,149	852	852	
		執行額	5,798	5,153	2,144	-	-		
執行率(%)	100.0%	99.8%	99.8%	-	-				
<b>成果目標及び成果実績 (アウトカム)</b>		成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
		(上段)学術研究及び産業利用に重要なターゲットとなるタンパク質のPDB登録数		成果実績	(件)	97 10	84 109	40 175	-
		(下段)細胞・生命プログラムの解明に向けて解析した細胞種の数		達成度	%	-	-	-	-
<b>活動指標及び活動実績 (アウトプット)</b>		活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
		機関数及び課題数		活動実績 (当初見込み)	機関数 課題数	49 54	52 49	46 46	- ( )
<b>単位当たりコスト</b>		47(百万円/機関)		算出根拠	47(百万円/機関) =(平成23年度執行額:2,144百万円)/(実施機関数:46)				
平成24・25年度予算内訳	<b>費目</b>	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由					
	科学技術試験研究委託費	850.7百万円	850.7百万円						
	諸謝金	0.3百万円	0.3百万円						
	職員旅費	0.4百万円	0.4百万円						
	委員等旅費	0.3百万円	0.3百万円						
	庁費	0.3百万円	0.3百万円						
	計	852百万円	852百万円						

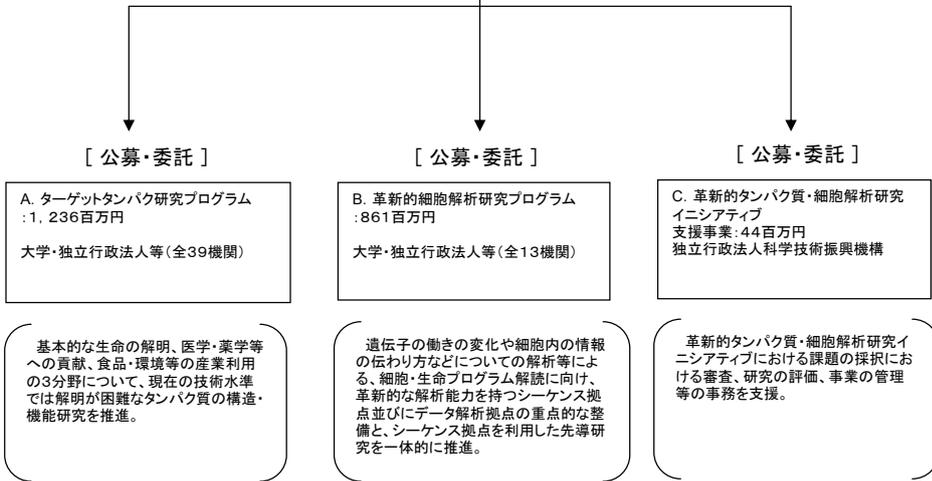
事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	・第4期科学技術基本計画(平成23年8月閣議決定)(4.(2), iii)等において位置づけられている。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・用途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	・公募により実施課題を募集し、公正なプロセスで課題選考を実施している。 ・全ての委託契約について、業務計画書を精査し、適切に契約を行っている。 ・支出先・用途を把握し、備品が適切に購入されたか等について、現地での確認等も含む額の確定調査を実施している。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	・成果報告書の提出、研究機関へのサイトビジット等により、事業開始時の当初計画と比べた進捗状況や今後の展望について毎年度確認して、適切な成果目標のもとで達成度が向上するように実効性の高い運営を行っている。 ・活動実績として、活動目標に見合った機関・課題が適切に成果を出していることを確認している。 ・施設等の利用者数を通じて、整備した技術開発拠点が十分に活用されていることを確認している。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>○明確な目標・計画に沿って国の委託事業として実施する政策課題対応型の研究開発であることから、支出先の用途の把握については、これまで厳格に実施している。具体的には、全ての委託契約について、支出先・用途を把握し、備品が適切に購入され、活用されているか等について、現地での確認等も含む額の確定調査を実施している。</p> <p>○成果報告書の提出、研究機関へのサイトビジット等により、事業開始時の当初計画と比べた進捗状況や今後の展望について毎年度確認している。</p> <p>○革新的細胞解析研究プログラムについては、先導的かつ革新的な技術開発に特に留意した効率的かつスピーディな取り組み、技術や研究成果の社会への普及等に取り組むべき。</p> <p>○「ターゲットタンパク研究プログラム」については、平成23年度をもって事業を廃止した。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>1. 事業評価の観点：本事業は、高速シーケンサー等を活用した細胞・生命プログラム解読及び創薬等への貢献が期待されるタンパク質解析を行う競争的資金である。</p> <p>2. 所見：本事業は、平成22年度レビュー等の指摘を踏まえ、24年度において各課題の中間評価結果に基づく事業の重点化を図ることで予算の縮減を図るなど一定の見直しを図ったことは評価するものの、引き続き、事業の効果的・効率的な実施を目指し、積算単価を見直すなどコスト削減に努めるべきである。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減	内部評価結果を踏まえて、計画の見直しを行うなど必要経費を精査し、物品費、旅費等の経費の効率化を図り、概算要求に▲16百万円を反映した。		
補記(過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
<p>&lt;事業仕分け&gt; 第1弾 ○事業番号/事業名3-38 ライフサイエンス分野(1)革新的タンパク質・細胞解析研究イニシアティブ(ターゲットタンパク研究プログラム)</p> <p>OWGの評価結果 予算要求の縮減(2割~半額)</p> <p>○とりまとめコメント：●タンパク3000プロジェクトで目標通りに成果が出せず、ゲノム創薬の目的が失われた。基礎研究に立ち返ったとはいえ、本質的に構図が変わったわけではないため廃止。NMR99台を各所に入れたが、メンテナンスと研究データ取得ツールとしては老朽化したといえる。</p> <p>●プロジェクトとしての具体的な目標が不明確であり、なぜ5年なのかも説明不足である。検証し直すべき。その上で制度設計から見直す必要がある。●580億円も投入したプロジェクトの検証が不十分ではないか。一度プロジェクトを中止して、仕切り直しをすることが必要。●これまでの多額な支出に対して、その評価についても十分なレビューが行われていない中で新たな支出は相当部分圧縮する必要がある。●タンパク研究の重要性はあり、また成果は上がっているが、タンパク3000からの延長でここに大きな予算を集中することがベストかどうか。●カブクの研究を見直すべき。</p> <p>●省の枠を越えた制度改善が必要。経産省と別けて実施する合理性がわからない。方法や規模、対象を総合的に戦略的にとらえた資金供給をした方が効果的ではないか。●成果目標の設定とその評価、それに基づいたPDCAサイクルを明確に。●成果の評価が明確に見えない。●ターゲットを決め打ちで集中すべき。</p>			
<p>&lt;事業仕分け&gt; 第3弾 ワーキンググループA</p> <p>○事業番号・事業名：A-24 競争的資金</p> <p>OWGの評価結果(制度)：見直しを行う(予算)：予算要求の縮減(1割程度)</p> <p>○とりまとめコメント：残念ながら、これまでの仕分けの結果が十分に理解されていなかった。科学技術振興調整費については、継続事業終了時点を持って廃止、つまり23年度の新規事業の募集は停止。トップダウン型事業については一つに統合。そして研究成果最適展開支援事業と産学イノベーション加速事業についてはボトムアップ型の科学研究費補助金とトップダウン型の戦略的な競争的資金とは別立てで、民間の負担をいれて行うべきものであるかも含め整理すること。予算については、実際の研究に必要な部分に効果的に使っていただくことに異論はないが、特にトップダウン型事業を集約することに伴い、様々な手間・手続きを整理することによって、1割程度削減しても同等の成果が得られることから、1割程度の削減とする。</p> <p>&lt;事業の内容を理解する上で必要な補足情報&gt;</p> <p>「ターゲットタンパク研究プログラム」については、拠点の積極的な外部開放と計画的な基盤整備を進めるため、平成23年度から一部補助事業に移行した。</p> <p>&lt;政策評価書&gt;○政策評価書記載ページ：<a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/hyouka/kekka/1291037.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/hyouka/kekka/1291037.htm</a></p> <p>&lt;関連ホームページ等&gt;○事業のホームページ：[ターゲットタンパク研究プログラム] <a href="http://www.tanpaku.org/">http://www.tanpaku.org/</a> [革新的細胞解析研究プログラム(セルイノベーション)] <a href="http://www.cell-innovation.org/">http://www.cell-innovation.org/</a></p>			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	0266	平成23年行政事業レビュー	0249

※平成23年度実績を記入



近年急速に性能が向上している高速のシーケンサー等を活用して細胞・生命プログラム解読に挑むとともに、創薬など医学・薬学への貢献が期待できる有用なタンパク質の解析を行い、生命現象の統合的理解、医学・薬学等の産業への貢献、並びに構築した基盤のより様々な分野の研究、産業へ波及効果を与えることを目指す。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を  
行っているか  
について補足  
する) (単  
位: 百万円)



A.国立大学法人東北大学			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品費	PC等	52			
人件費	研究者及び研究補助者	8			
旅費	国内旅費、外国旅費	1			
その他	雑役務費等	1			
間接経費	直接経費の30%	19			
計		81	計		0
B.大学共同利用機関法人情報・システム研究機構			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品費	データ管理・解析システム	1			
人件費	研究補助者の雇用	29			
旅費	国内旅費	1			
その他	諸経費	62			
間接経費	直接経費の30%	28			
計		121	計		0
C.独立行政法人科学技術振興機構			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
委託費	支援業務委託費	44			
計		44	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	国立大学法人東北大学	発癌性物質や酸化ストレスに応答する生体防御系センサーの構造基盤	81	企画競争	—
2	国立大学法人東北大学	がんや様々な疾病に関与するNPPファミリータンパク質の機能構造解析から創薬まで	71	企画競争	—
3	国立大学法人東京大学	乾燥・高温ストレス耐性作物の開発に役立つ転写制御タンパク質の構造・機能解析	60	企画競争	—
4	国立大学法人大阪大学	ATP生産関連膜蛋白質系の構造と機能解析	48	企画競争	—
5	国立大学法人名古屋大学	オートファジーに必須なAtgタンパク質群の構造的基盤	41	企画競争	—
6	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構	小胞輸送を制御するタンパク質複合体の構造機能解析	40	企画競争	—
7	公立大学法人横浜市立大学	クロマチン上での基本転写因子、転写制御因子、ヒストン修飾因子の構造生物学	37	企画競争	—
8	国立大学法人大阪大学	アルツハイマー病治療薬創出に向けたγセクレターゼの構造解析と機能制御	36	企画競争	—
9	国立大学法人北海道大学	オートファジーに必須なAtgタンパク質群の構造的基盤	35	企画競争	—
10	国立大学法人東京大学	ケモカイン・ケモカイン受容体・シグナル制御分子フロントファミリーの構造・機能ネットワーク解析からの免疫システムの解明および創薬開発	33	企画競争	—

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構	データ解析拠点の構築と情報研究開発	121	企画競争	—
2	独立行政法人理化学研究所	細胞比率制御ネットワークと細胞へブ学習則の解明	102	企画競争	—
3	独立行政法人理化学研究所	次世代シーケンサー拠点整備及び運営	100	企画競争	—
4	国立大学法人東京大学	初期発生における雌雄染色体コリオグラフィーについての革新的研究	80	企画競争	—
5	国立大学法人東京大学	次世代シーケンサーを活用した前立腺がんと乳がんの細胞制御システム機構の解明	56	企画競争	—
6	国立大学法人東京大学	細胞がん化シグナルネットワークの統合システム解析	47	企画競争	—
7	国立大学法人東京大学	データ解析拠点の構築と情報研究開発	45	企画競争	—
8	学校法人埼玉医科大学 埼玉医科大学	神経細胞機能に着目した、ミトコンドリア呼吸鎖異常を起こす遺伝子変異の系統的な探索	37	企画競争	—
9	国立大学法人京都大学	細胞がん化シグナルネットワークの統合システム解析	35	企画競争	—
10	独立行政法人理化学研究所	細胞個別的シーケンス解析のための光学的サンプリング技術の開発	35	企画競争	—

※課題毎に示す一覧であるため、1機関あたり複数の課題を採択している場合がある。

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	独立行政法人科学技術振興機構	革新的タンパク質・細胞解析研究イニシアティブにおける課題の採択における審査、研究の評価、事業の管理等の事務支援。	44	企画競争	—